

未来を拓く自分らしい生き方を実現する「総合的な学習の時間」

—「生き方探求」の時間を通して—

1. 設定理由

本校は、生徒が10年後、20年後、直面するであろう様々な問題に柔軟に、かつたくましく対応し社会人として自立し、自分らしい生き方を実現することをめざしている。全教育活動を通して、学び合いによる「確かな学力」を高める指導、豊かな人間性を育むための教育活動、系統的なキャリア教育、総合的な学習の時間を通して、「生き方探求」のための教育活動のつながり、系統的な指導計画にもとづいた地域学習・体験学習を推進し、探究的な学びを行うことは、自己の生き方を考えることとなり、これからの将来に必要な資質・能力が育成されるであろうと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

「生き方探求」のための系統的な指導計画を立案、実践していくことにより、他者の「生き方」から学び自己の「生き方」を探究することで、夢や希望をもち、「未来を拓く自分らしい生き方」を実現する力が身につくであろう。

3. 研究内容

- (1) 系統的な指導計画、学習プロセスに沿った地域連携学習の実践
- (2) 「生き方探求」のための教育活動のつながりとアウトカム評価の推進

4. 結論

- 1学年時より、総合的な学習の時間を軸として、自己の生き方を考える機会を意図的に設定し、系統的な指導計画のもと、学習プロセスに沿った学習や活動を進めることにより、将来へ向けての思いを持つ姿勢が見られ夢や希望の実現に向けて向上しようとする生徒が増えている。
- 1学年での地域学習「茂原学」において、地域を再認識することだけでなく、将来は地元のためにといい気持ちを持つ生徒の育成を図れている。
- 2学年で地域連携特別授業である「プロフェッショナルに聞く」において、様々な職種の方々から職業について話を聞くことにより、自分が望む生き方を実現していくために、これから何をすべきかをじっくり考えることができた。
- 3学年の「中・高連携特別授業」で専門性豊かな近隣の高等学校の先生の授業を受けることにより、高等学校への興味を持ち、進路選択を身近に感じる機会となり、自分の意志と責任で目標に向かって計画的に学習を進めなければならないと考える生徒が増えた。
- 自分らしい生き方の実現に向け、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育てていくことが求められる。生徒の発達段階に対応するための指導・助言を今後も充実させ、教育活動を多角的にみながら、夢や希望をもち生活する生徒の資質・能力の育成に励みたい。

1. 研究主題

未来を拓く自分らしい生き方を実現する「総合的な学習の時間」
— 「生き方探求」の時間を通して—

2. 主題設定の理由

本校では、「未来を展望する創造的な知性と、たくましい体力を持った心豊かな生徒の育成」を教育目標に掲げ、「チーム茂中」を合い言葉に、「友だちどうし、心の通う楽しい学校」「わかる喜び、学びの学校」「感動あふれる、生き生きとした学校」を目指し、日常の実践にあたっている。これは、「常に未来を見つめ、あらゆる変化に主体的に対応できる力」を養うとともに、「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」をめざしており、「生きる力」の育成につながるものである。この教育目標のもと継続的に「確かな学力」を身につけた生徒の育成を図る研究を行い、幼保・小・中・高・地域連携事業や共同学習の実施、行事や特別活動でのアウトカム評価の推進、豊かな人間性を育むための道徳教育の充実、社会的・職業的に自立し、地域で活躍する人材の育成をめざすために、系統的なキャリア教育を推進している。

本校の生徒は、明るく穏やかで、考えたことを素直に表現できる生徒が多い。また、行事や生徒会活動、部活動の中で、集団の向上のために意欲的に活動できる生徒も増えている。その中で、心ない言葉を発言する場面や、夢や志をもたずに何となく生活している生徒も見受けられる。学習において、学力向上のため家庭学習に力を入れている生徒も多くなってきてはいるものの意識の低い生徒も見られ、上位と下位の生徒との学力差が大きく二極化されており、自分の言葉で表現する力や、学んだことを他に活用したりすることに課題がある。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習を進め、基礎・基本の定着や主体的・協働的に課題にとりくむことで、学習習慣の確立や汎用的能力を図り、学力向上へとつなげている。また、道徳教育の充実を図ることで、豊かな心が生まれ、自他ともに尊重する心の教育を行い、そして、系統的なキャリア教育を推進することで、社会的・職業的自立に向けた能力・態度が育成され、学習意欲の向上へとつながる。「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた生徒を育成することは、生徒が10年後、20年後、直面するであろう様々な問題に柔軟に、かつたくましく対応し、社会人として自立し、未来を拓く自分らしい生き方を実現することとなるであろうと考えた。それはまた、保護者や地域の願いでもあり、人生設計を考え、将来に結びつけるための学習を行うことで生き方を考えることともなる。

総合的な時間の目標を「自らの課題解決に向けて、自分の生活と地域の人々や自然とのかかわりについての探究的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付け、見いだされた課題や問題の解決に主体的に、かつ協同的にとりくみ、よりよい自己の生き方を考えることができるようにする」と設定し（**資料1**）、「自ら課題を見付け、思考し、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする生徒」「友だちと活動したり、対話したりしながら、自己を振り返り、自己の考え方を再構築している生徒」を育成することをめざし、実践している。自分に向き合わせるという方向性、好ましい人間関係をつくる能力を育てること、自分のめあてや目標に向かって努力すること、主体的な意思決定や自己選択の能力等を育てるための場面や機会を適切に取り入れ効果的に活かすことは、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えていくことであり自覚することができる。そして、学習の成果から達成感や自信をもち自分のよさや可能性に気づき、自己の生き方を考えることにつながる。自らの生活のあり方を見直し、自分の将来を考え、夢や希望をもつことができる資質や能力、態度を育てることは、自分らしい生き方を実現するであろうと考え、本主題を設定した。

3. 研究仮説

「生き方探求」のための系統的な指導計画を立案、実践していくことにより、他者の「生き方」から学び、自己の「生き方」を探究することで、夢や希望をもち、「未来を拓く自分らしい生き方」を実現する力が身につくであろう。

「未来を拓く自分らしい生き方」を実現するためには、キャリア教育の視点で、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、日常生活における活動を位置づけることにより、理解・認識面や情意・態度面の効果的な育成を図ることが必要である。そのためには、計画的・系統的に行うことが重要であり、発達課題に即した目標を設定し実践することで、自己の生き方を考えようとし、「未来を拓く自分らしい生き方」を実現しようとする気持ちや態度が備わるであろうと考える。生徒の意識調査では「自己理解・自己管理能力」の数値が落ちていることが明らかになった。また、「学校・家庭生活アンケート」の結果からみても、「挑戦する気持ち」や「夢や目標」をもっている生徒の割合は、全国と比較しても10%以上高いが、「自己肯定感」は約18%ほど低い。（資料2）そこで、生徒の自己肯定感を高め、将来を前向きに考えて諸活動にとりくむことができ、さらに、意図的なガイダンスを行うことで、「自分は何のために学ぶのか」「この活動を通して自分自身がどう成長していくべきか」を生徒一人ひとりが意識できるよう、丁寧な指導を行うことが大切であると考えた。また、学習のプロセスを意識した学習活動となるよう、総合的な学習の時間に時間をかけてとりくむことで、生徒の思考ツールを広げることで大きな視野をもち、直近の夢や目標だけでなく、10年後、20年後の将来を考えることができる生徒を育成したいと考えた。以上のような理由から、本研究では先に述べた仮説を全職員共通理解のもと、日々実践にあたっている。

4. 研究の内容と実践

(1) 系統的な指導計画、学習プロセスに沿った地域連携学習の実践

職業や自己の将来に関する課題は、義務教育の最終段階にある中学生にとって現実的な課題である。この課題について、具体的な体験や調査活動、仲間との話し合いを通して学び合う機会をもつことは、自己の生き方を具体的なものとして考えることにつながる。また、このことは、自己の将来を切り拓いていこうとする資質・能力の育成において重要である。職業の選択と社会への貢献、働くことの意味や働く人の夢や願いは、探究課題を設定することにおいてより身近なものとなる。

そのためには、学校教育活動だけではなく、家庭との連携のほか、異校種、地域・社会、企業、NPO等との連携も必要不可欠である。それぞれの進路を探索し選択するための重要な基盤形成の時期に、専門的な知識を持っている保護者、社会人、職業人等から直接学ぶ機会を持つことにより、社会人として必要な自立性や社会性が育まれていくこととなる。

社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力を育成するために、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善を考えていく学習を、学年合同での学習や、同一資料や指導案をもとに進め、1学年時より系統立てて行っている。義務教育最終段階である生徒にとって現実的な課題となることから、1学年時の総合的な学習の時間を大切に学習の基盤をつくり教科と横断しながら進めている。その際に、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や、言語活動により分析し、まとめたり、表現したりする学習活動を意識的に取り入れ、学習プロセスの中で生徒の思考を助けるために、ランキングやブレインストーミング等の思考ツールを活用しながら、探究的な学習となるようとりくんでいる。

その指導計画の中で、本校では、「キャリア教育の視点」「コミュニケーション能力を育む教育」

「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の3つを基軸の視点として、1学年で郷土愛にふれる「茂原学」、第2学年で働く意義を考える「プロフェッショナルに聞く」を通し、望ましい勤労観・職業観を形成する機会を設定している。そして、中学校から高等学校への学校間の移行には、生徒の発達段階に応じた継続的な指導の充実も必要不可欠であることから、3学年で学校間（異校種間）の連携の一環として「中・高連携特別授業」を実施し、不安解消とともに新しい生活環境に対して円滑に適応できる機会、直面している高校進学をより深く考える場としている。「茂原学」「プロフェッショナルに聞く」「中・高連携特別授業」は、各学年の総合的な学習の時間の中で、系統立てで行っている「生き方探求」の中でも大きなとりくみであり、身近な人々や社会に興味・関心をもち、意欲的に関わろうとする主体的、協同的な態度を育成することにつながり、生徒が課題解決への意欲を高め、見通しをもてるものである。

その際に、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学習プロセスを進めることは地域の人やその道の専門家との交流により、自分にとって意味や価値のある課題を見いだすことや、分析、まとめることがどういうことなのかを思考し、それは自己理解を深め、自他を尊重することにつながり、生き方について考える一助となり、段階をおっていく中で育っていくものと考えることができる。そして、学習したことを自分から周りに発信していくことは、表現することにもつながっていくと考える。

第1学年【生き方探求】		
流れ		
1	オリエンテーション	○「進路」ってなあに ○今、希望する職業は？ その理由は？
2	生き方学習	○どのような人生を送りたい？ ○大切にしたい価値は？
3	中学卒業後は？	○中学卒業後の自分を考えよう ○進路マップ
4	なぜ、働くのだろう	○なぜ、私たちは働くのだろう ○もしも就職するならば
5	自分を知ろう	○友だちからのアドバイス ○自己分析
6	職業と適性	○自分にあった職業は？ ○この職業にあうのは、こんな人
7	働いている人から学ぼう	○身近な大人へインタビュー
8	2年生に向けて	○職業調べ ○社会人として求められる力～自分を磨こう～

(資料3)

第1学年【地域連携授業：茂原学】		
1 目的		
(1)教育基本法や学習指導要領に示された「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」を受け、茂原市の歴史や伝統・文化、環境についての学習を通して、茂原市を知り、郷土としての茂原市を愛する心を育てる。		
(2)ますます進展していく国際化、情報化社会の中で、将来、自分の育った茂原市について誇りに思い、郷土の歴史や文化について広く語る事ができる生徒を育成する。		
2 講座一覧 (2016年度実施)		
1	すずめようリサイクル ～ごみの減量化・資源化～	千葉県地球温暖化防止活動推進員・茂原市役所 環境保全課
2	茂原の商工観光	茂原市役所 商工観光課
3	茂原の農業	茂原市役所 農政課
4	新しいタイプのインターチェンジ ～使えるハイウェイの発見～	茂原市役所 土木建設課

5	郷土もばらの先覚者	茂原市役所 生涯学習課
6	茂原のお城	茂原市立美術館・郷土資料館

3 学習過程

主な学習活動	指導上の留意点
<p>【課題設定】</p> <p>○「茂原」について学びたい課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の学びたいこと、茂原学一覧を参考にする。 <p>茂原市の〇〇を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 茂原市について知っていること、知らないこと、興味のあるものを課題としてとらえ、友だちと話し合う。 茂原市についてイメージする。 ☞ [思考ツール] <p>受講講座を決めよう</p> <p>「かかわりたい」「貢献したい」という興味を抱かせ、働くよさや価値を実感する。 ☞ [キャリア教育]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら課題意識をもち、その意識が発展するよう、茂原市についての合同学習を行い、意図的な働きかけを行う。 これまでの茂原市に関する自分の考えとの意識のずれや隔たりを対比できるよう、昨年度までの資料をもとに説明する。 課題意識を高めるため、自分の知識、友だちの知識を比較する等の場を設定する。
<p>【情報収集】</p> <p>○インターネット、書籍、雑誌等で情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT活用、図書館活用により、情報を得て、質問事項等を考える。 ☞ [国語科・技術科] <p>○「茂原学」の専門的な人から、話をうかがい、情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報や思い、願いを直接得ることで、考えを深める。 <p>実際に話を聞いたり、疑似体験を通して思いや願いを感じることができ、地元愛や職業への考えを深める。 ☞ [キャリア教育]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味関心、市役所各課の来校を調整する。 書籍の紹介に際し、市役所等にも相談し、文献を準備する。 受講のための、講座の流れ、役割分担、質問事項、講師接待の仕方等の準備を行う。リハーサルを行うことで人とのつながりを考えるようにする。 各課に事前質問の準備、当日講座内や質疑応答で回答していただけるように依頼する。
<p>【整理・分析】</p> <p>○情報を、表、グラフ、ワークシートで整理・分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査したことを統計的な手法でまとめる。 ☞ [数学科] 体験したことをワークシート等で整理する。 ☞ [思考ツール] <p>収集した情報を、「○、×」「内容、知識」「思い、願い」等、多面的に整理・分類し、職業に対し考えを深める。 ☞ [キャリア教育]</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのような情報が、どの程度収集されているかを把握する。 表やグラフ、ワークシートを整理して、他者と協同的に話し合いを進めることにより、わかったこと、疑問に思ったこと、思いや願いを共有できるようにする。
<p>【まとめ・表現】</p> <p>○自分の考えを明確にし、まとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスター、プレゼン、新聞、お礼状を作成する。 ☞ [国語科] 保護者等発表することで、相手意識、目的意識を明確に表現する。 ☞ [言語活動] <p>○レポートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を再構成して自分の考えをレポートにまとめる。 <p>自分の思いや願いを、自己の生活、将来の自分につなげ、いかしていく。 ☞ [キャリア教育]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べた動機、目的方法、結果、考察などを工夫して表現し、探究的な学習過程が分かるよう工夫する。 自分自身の考えをまとめ、表現することにより、新たな疑問や体験してみたいことなど、課題が更新できるようにする。

第2学年【地域連携授業：プロフェッショナルに聞く】

1 目的

(1)様々な職種の方の職業について話を聞くことで、自分の将来の職業について関心を高める。

(2)様々な職種に就くために必要な事柄を知り、現在の自分にとって必要なものは何かを考える機会とする。

(3)中学校を卒業してからの自分の進路を具体的に考える一助とする。

2 講座一覧 (2016年度実施)

1	茂原警察署	警察の仕事	5	茂原保育所	保育士の仕事
2	銀行員	銀行の業務	6	茂原中央消防署	消防士・救急隊 (災害出動含む) の仕事
3	田嶋自動車工業	自動車修理工場の仕事	7	音楽家	音楽家 (オーボエ奏者) の仕事
4	双葉電子工業	主な製品及び仕事			

第3学年【中・高連携特別授業：高校の先生の専門性豊かな授業を体験しよう】

1 目的

○中高連携教育の一環として、高等学校の先生から専門性豊かなご指導をしていただく中で、学習への意欲や興味を持たせ、将来の夢への実現を考える。

2 講座一覧 (2017年度実施)

1	公民科 (倫理)	「ニュートンが科学者じゃないって本当?」	千葉県立長生高等学校
2	英語科	「What's happening in the world?」	千葉県立長生高等学校
3	理科 (生物)	「眼の構造と光の受容」	千葉県立茂原高等学校
4	芸術科 (書道)	「宛名書きを中心とした封筒・葉書の書き方」	千葉県立茂原高等学校
5	農業科 (草花)	「フラワーデザイン」	千葉県立茂原南高等学校
6	工業科 (電子)	「電子回路に触れてみよう」	千葉県立茂原南高等学校
7	情報処理科	「エクセルを使って」	千葉県立一宮商業高等学校
8	理科 (化学)	「果物や野菜で電池を作ろう」	千葉県立土気高等学校
9	数学科	「フィボナッチ数列」	市原中央高等学校
10	数学科	「いろいろな曲線」	茂原北高等学校

(2) 「生き方探求」のための教育活動のつながりとアウトカム評価の推進

本校では総合的な学習の時間を2期に分け、後期を「生き方探求」として設定し、キャリア教育の視点から学習を進めている。学校での諸活動の意義や価値がどんなに高いものであっても、一つひとつの活動につながりがなく行われていたのでは、それらの活動はその場限りの活動になってしまい、生徒が生き方を考えるキャリア発達を円滑に促していく指導とはほど遠いものになってしまう。また、指導する側に「その活動のキャリア発達を促す指導・援助における位置づけ」や「一つひとつの活動のつながり」の認識がなければ、本当の意味で生徒一人ひとりの成長・発達を支援する活動にはならない。そこで、各教科、領域、その他のそれぞれの教育活動につながりをもたせ、3年間を見通した系統的な学習を学校全体を通して行っていく必要がある。

そこで、教育活動全般にわたって対応できる、各学年で身につけさせたい力（「基礎的・汎用的能力」）を設定し、段階的に育成する視点から、本校生徒の実態を踏まえて設定し指導へとつなげるようにした。これにより、総合的な学習の時間を軸として、教科、道徳、特別活動、各行事の指導や諸活動にも関連させることができると考えた。各教科・領域でも設定し教職員が共有することで、特定の教科に留まらず、生徒が、自らの生活や行動、学ぶ意味や価値、現在及び将来の生き方につなげて考えるこ

とができるようにした。「人間関係形成・社会形成能力」では「人とのつながり」, 「自己理解・自己管理能力」は「前向きにやり抜く」, 「課題対応能力」は「自分磨き・探究」, 「キャリアプランニング能力」を「未来設計」というコンセプトで進めている。(資料4)(資料5)

そして、PDCAサイクルによるキャリア教育のシナリオづくりを進め、さらに「アウトカム評価」の推進を行うことで、生徒の次につながる「見方・考え方」が表現できるように、ワークシートや個人掲示物、行事ノートを工夫したり、「事前・事後計画」による評価を行ったりすることで、「自己肯定感」を高め、夢や希望に向かっていくために個人の蓄積を行うこととした。(資料6)

5. 仮説の検証

教育活動全体を通して、生徒がどのように感じ、今後どうしていこうと思っているのか、自己の生き方や将来を考える生徒を育成するために、アウトカム評価を行うことにより、生徒の変容をつかみ、評価を改善につなげることができるように様々な場面で事後指導を行った。その際の生徒のコメントから検証する。

(1) 系統的な指導計画、地域連携学習との関連からの検証

若者の完全失業率や非正規雇用率の高さ、早期離職者の存在が大きな問題となっている今、生徒一人ひとりが正しい勤労観や職業観を身につけ、将来社会で自立していくために、自己の生き方考える学習を行うことの役割は大きい。地域連携学習を通して、生徒の「生き方探求」を自己のものとして考え、系統的な指導計画を立案、実践したことにより、生徒が自らの役割や将来の生き方・働き方をどのように前向きに考えられるようになったかを個人の変容と生徒のコメントから検証する。

次に記載したものは、総合的な学習の時間のとりくみにより、働くことの意義や将来の自分自身の生き方について、より考えが深まっていることがうかがえるものを抜粋したものである。

生徒Aは、1学年時には夢である「先生」になるための調査活動の中でその厳しさを理解したものが中心である。「茂原学」では歴史に興味があるから「先覚者」について調査、そして話を聞くことで、公務員という職業にも興味を持ち、2学年時には他者との関わりの中で自分の良さを生かそうとしたコメントに変化している。さらに、3学年時には異校種の授業を実際に体験することで、「自己理解・自己管理能力」にもつながるであろう、今自分は何をすべきかということにまで考えが及んでいることがわかる。公務員にも興味を持ちながらも自分の夢である「先生」になりたいという考えを記載している。

生徒Bも、1学年時に夢である「ピアニスト」になるまでの過程を調査することにより、すでに今自分は何をすべきかに考えが及んでいる。「茂原学」では人のために尽くそうということは素晴らしいと感じ取ったことが、2学年時では、地域の方々からの協力もあり、よりよい自己形成のために苦勞や厳しさにも果敢に挑戦しようという思いにまで至っている。そして3学年時には、将来の自分自身をしっかりと意識し、自己の適性や可能性を最大限に引き出していこうとする意欲を読み取ることができる。

生徒Aの3年間の変容(抜粋)

【1年:茂原学】歴史に興味があり、「郷土茂原の先覚者」を調べ、受講し、自分の住んでいる地域にこんなにも有名な人がいるのだとわかりました。あらためて茂原はよいところなのだなぁと思いました。そしてその話をしている人が市役所の人だということに、自分も公務員という仕事に興味をもちました。

生徒Bの3年間の変容(抜粋)

【1年:茂原学】「茂原の商工観光」について調べました。七夕まつりや桜の名所で有名なことは知っていたし、調べることはできましたが、その観光について市役所の方がこんなにも力を入れていることにびっくりしました。茂原市のために尽くしていることはとても素晴らしいと思いました。

【1年：職業調べ】 小学校の先生のことを調べて、先生の大変なところがわかったし、授業を受ける大切さがわかりました。

【1年：職業調べ】 ピアニストについて調べました。収入、勤務時間、職業につくまでのコースも調べることができました。ピアノをもっと練習して一生懸命頑張りたいと思います。

【2年：プロフェッショナルに聞く】 「生命力を引き出す仕事～100歳を超えても人生を楽しむ世の中～」を受講しました。講師の方の話を聞き、出会いは大切だと思いました。人のために何かができる自分になりたいと思いました。

【2年：プロフェッショナルに聞く】 「運動部活によるけがとその対応」を受講しました。やはり勉強は大変だけれど、私も自分の夢のために受験まで頑張りたいと思います。講師の先生のように、何事にも挑戦していきたいです。

【3年：中高連携特別授業】 「数学科：指数の拡張」を受講しました。学習内容がレベルアップして難しかったです。しかし、指数が0だったり負の数だったり、初めて見る形もあり私の中の数学の世界が広がりました。この「中高連携特別授業」を通して、高校の授業が楽しみになりました。そのためにも、中学校でしっかりと勉強しようと思いました。また、難しいことをわかりやすく教えてくださいと先生という職業に憧れをもち、夢に向かってがんばろうと思いました。

【3年：中高連携特別授業】 「芸術科（書道）：宛名書きを中心とした封筒・葉書の書き方」を受講しました。高校ではどんな雰囲気でも授業を進めていくのかを知ることができてよかったです。夏休みにはいろいろな高校へ体験に行き、各高校のもつ楽しさや自分にあった場所をしっかりと見つけたいと思いました。そのためにも、受験に向けて努力したいと感じました。そして、自分の得意なものを伸ばしたいとも思いました。

次は、3学年の「中・高連携特別授業」の受講後に生徒が書いた感想を抜粋したものである。本校では、2010年度から「中・高連携特別授業」を行っている。専門性豊かな高等学校の先生方の授業を受けることで、生徒自身が高等学校への興味をもち、進路選択へのひとつのステップとなったことが感想からもうかがえる。総合的な学習の時間に上級学校の調査活動を行い、各学校を把握した上で、「中・高連携特別授業」の受講前に、学級活動で「自分に合った進路先とは」を題材として、自己の適性について理解し、進路選択に生かしていこうという学習をしている。学級活動での学習が自分自身を深く理解するために有効であったと考える。さらに事後指導として学級活動で「進路選択の準備をしよう」という題材では、進路選択の流れについて学習を行った。進路に関することは自分の意志で決定することであるが、どのようなことを参考に、どのような手順で決定したらよいかを確認できる時間となり、さらには、夏季休業中の高等学校体験入学への積極的な参加へ繋がるよい機会となっている。

【中・高連携特別授業】生徒の感想（抜粋） [2016年度・2017年度：3学年]

- 一足早く高校の授業を受けることで、自分の進路について改めて考えることができたとてもよい機会となりました。意識を高めることにもつながりました。私の第一希望は普通科ですが、今回体験した科のように専門学科にも興味がわきました。見学や体験入学を通して、自分にあった第一希望を決めたいと思います。
- 生物の授業はとても楽しくて、きちんと発表もでき、理解もできました。しかし、今の自分の学力ではまだまだ入学できないので、この高校を目標にして、頑張って勉強しようと思いました。
- 自分の中で、高校に対する見方が大きく変わりました。多くの高校を見学して、自分が本当にいきたい高校を見つけたいと感じました。
- 高校ではものづくりをしたいと思い、フラワーアレンジメントを体験しました。ものづくりはセンスも必要であることがわかりました。また、学習内容も花の名前を覚えるだけでなく、季節や花言葉なども先生は話してくれ、自分の好きなことと、人のために役立つことのできる学科で勉強したいと思いました。

(資料7)

(2) 「生き方探求」ための教育活動のつながりとアウトカム評価からの検証

総合的な学習の時間の「生き方探求」をもとに、各教科・道徳の学習において、学習を進める際に、自分の将来や夢を意識した授業となるように進めてきた結果、アウトカム評価による生徒のコメントは授業の感想だけでなく、これからどうすべきか、また将来の生き方についても書くことができるようになってきている。また、総合的な学習の時間で学ぶ思考ツールを、教科でも活用することで、生徒は様々な考えを出し、少しずつ自分を表現するようになってきている。

【2年生：道徳】 主題：節度・節制 内容項目：A(2) 教材：学校でなめる『あめ』の味 [2016年度]
学校に必要なものを持ってきてはいけないことはわかっているが「あめ」くらいならと思った主人公の気持ちはわかるような気がする。けれど「あめ」という言葉を「いじめ」という言葉に変えた時、社会生活の中でとても嫌なことだと感じた。嫌なら嫌という自分の考えをしっかりと伝えるようにしたいし、 <u>これからの行事の時にみんなで仲良く過ごしたい</u> と感じた。また、 <u>自分が仕事についた時、これくらいならという考えは会社に損失を与えてしまうかもしれない</u> と思うと、 <u>しっかりと自分をもつことが必要でありこれから考えていきたい</u> と思った。

各行事において、生徒個々が目標や目的に向かって精一杯とりくむことができたか、参加することで得たこと、これからどう成長したいと考えているか等、自己を振り返る時間を確保している。行事を重ねるごとに、生徒の成長が見られるとともに、行事から得たことと、自分の将来をつなげて表現することができるようになってきている。

【入学式】 新入生から「これから頑張ろう!!」という気持ちが呼名の時に伝わってきた。自分の入学した頃を思い出しながら、あつと言う間に2年間が過ぎたと思った。この一年、 <u>自分のことだけでなく、周りを見て行動できるよう努力</u> したい。クラスの先生や仲間とは同じだったので、あまり実感が湧かなかったが、今日、この一年間で自分の進み道を決めようと思った入学式だった。 [2017年度：3年]

【開校記念式典】 校長先生の「校歌」の話 シンボルツリーの「松」の話等、知らなかったことを知ることができ、 <u>学校全体の発展中に対する愛憎が深まったように思う。もっと他のことも知り</u> たいと思った。そして、 <u>同じ長い時を一緒に過ごす友だちを大切に</u> していきたい。来年の70周年は自分たちが卒業生となる。 <u>伝統を引き継ぎ、飛躍できたらよい</u> と思う。 [2016年度：2年]
--

【情報モラル教室】 自分は大丈夫だと安心せずに、 <u>しっかりと考えてパソコンやスマホを利用することが大切</u> だと思った。インターネットの怖さを知ることができたので、 <u>周りの人を傷つけることのないように</u> したい。きちんとした <u>情報利用の仕方を知</u> っていきたく、親と約束を決めたい。何気ない書き込みが自分の将来にも関わってくることから、 <u>将来を考えた使い方</u> をしたい。 [2017年度：3年]
--

【卒業証書授与式】 今年が昨年よりも礼法、式歌に自信を持って臨むことができた。 <u>経験することで成長</u> すると感じた。3年生を送る会や卒業式の練習にみんなでまとも練習できたことを生かして、 <u>楽器での行動や言動</u> を考え、3年生ではいろいろな行事が込み、そして後輩とともにすばらしい行事をつくりたいと思った。 <u>きっとそれは将来に</u> いきると思う。 [2016年度：2年]

(3) 学習プロセスからの検証

それぞれのとりくみを行う際に、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を、生徒がわかるように本時の課題として設定して活動をしている。総合的な学習の時間の前期では、地域の自然や文化について探究し、後期では生き方探求を行っている。総合的な学習の時間でも、教科学習と同様に本時の学習問題・学習課題を黒板に提示し、どのように学習を行っていくのか見通しをもってとりくませることにより、流れを把握できる。また、興味付け、意欲付けのために、思考ツールの活用を行うことにより、様々な考えが引き出され、自由に自分の意見が発表できる雰囲気になることは、言語活動の充実にもつながり、教科学習にもよい方向につながってきている。次は、思考ツールを活用して総合的な学習を行った際に、自己の評価カードから思考ツールについて記載されているものを抜粋したものである。

【ランキング】

- ・ランキングをつけることは、自分の考えを整理することにとっても有効だと思った。けれど、正直難しいと思う時もある。
- ・ランキングは楽しい。けれど、今日はこうなったけれど、ちょっと前の自分だとうでなかったと思う。自分の心境によっても変わるものなんだと思う。

【ブレインストーミング】

- ・とにかく何を言ってもよいということは気持ち的に楽である。みんないろいろな考えを持っている、「みんな違ってみんないい」という先生の言葉が嬉しかった。
- ・自分の意見をいうことがちょっと恥ずかしかった。何か言われたらどうしようと思った。でも、みんな優しくかった。

【KJ法】

- ・いろいろな意見を似たものどうしに集める作業がおもしろかった。どこにまとめどんな題をつけるのか、自分の意見が多い所にあるのか、少ない所にあるのか興味を持った。

【ウエビングマップ】

- ・一つの言葉からいろいろな言葉へ発展していくことにびっくりした。こんな風に考えていけば人に説明する時にわかりやすくなるのかもしれないと思った。

意識的に思考ツールを活用して進めることにより、生徒は考えることやまとめることに対して、楽しみながら活動している。総合的な学習の時間だけでなく、教科、道徳、特別活動においても活用していることから、「分析すること」「まとめること」に工夫が見られるようになってきた。また、この時間は何をしているのか理解できるように、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学習プロセスを教科学習同様に進めることにより、自分の考えを振り返り、さらにどうしていくべきかという次の視点を発見する思考のサイクルを見出せるようになり、自己理解へとつながっている。

【学習プロセスのポイント】

【課題設定：課題意識を持つ】 興味や関心を持つこと、自分のテーマを考えることの大切さを理解させる。思考ツールの活用により、様々な言葉から課題を決定する。何を知りたいのか、どのように何を調べるのか、どのように発表するのか、はっきりさせる。

【情報収集：課題追求に即した知識の構築】 インターネット、書物、現地等で課題に即した情報を収集する。個人の活動だけでなく、同じ課題を持つ友だちとグループ活動することにより、情報の共有を図り、知識を増やしていく。

【整理・分析：課題に対する知識を深める】 情報収集した知識を、思考ツールの活用やどのように発表したらよいか、深めていく。

【まとめ・表現】 自分の考えをまとめ、新聞作成、お礼状作成、プレゼン等で発表する。発表することで自分を振り返る。

以上のことから、系統的な指導計画を立案、学習プロセスに沿った実践していくことにより、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方を前向きに考えることができるようになり、他者の「生き方」から学び、自己の「生き方」を探求し、さらに「未来を拓く自分らしい生き方」を実現しようという思いをより強くもつことができたといえる。

6. 成果と課題

(1) 成果

○1学年時より、学校教育活動全体を通して、自分の生き方を考える機会を意図的に設定し、学習や活動を進めることにより、将来へ向けての思いを持つ姿勢が見られ、夢や希望の実現に向けて進歩、向上しようとする生徒が増えている。

○1学年で「茂原学」を行うことで、郷土への関心を持ち、何かに参加しようという思いだけでなく、

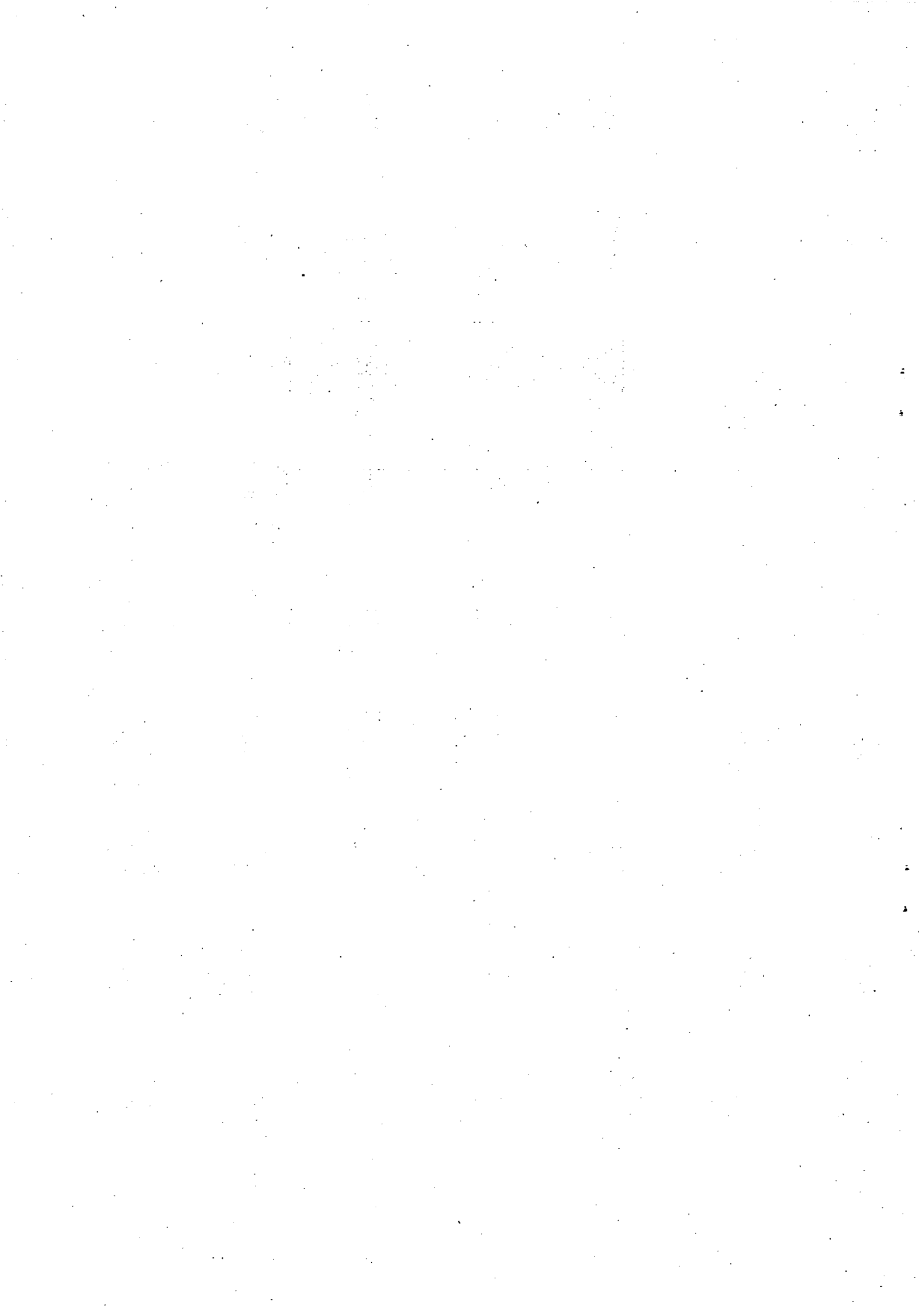
地域で働く人や将来の地域の姿を知ることにより、自分の未来を重ねようとする生徒が出てきた。また、将来、地元で働こうという気持ちをもつ生徒の育成を図ることができた。

- 2学年で地域連携特別授業である「プロフェッショナルに聞く」において、様々な職種の方々から職業について話を聞くことにより、自分が望む生き方を実現していくために、これから何をすべきかをじっくり考えることができた。
- 3学年の「中・高連携特別授業」で、専門性豊かな高等学校の授業を受けることで、生徒自身が高等学校への興味を持つとともに、進路選択を身近に感じる機会となり、自分の意志と責任で目標に向かって計画的に学習を進めなければならないと考える生徒が増えた。
- 総合的な学習の時間と各教科、領域等で、将来の生き方や夢を意識した授業展開をすることにより、将来を考えた言動が見られるようになってきた。キャリア形成の視点から学習を展開することは、生徒が将来を前向きに考える重要な要素だと考える。
- 学習プロセスの具体化、思考ツールの活用により、見通しをもった活動ができるようになってきた。

(2) 課題

- 横断的な学習を行っていくためにも、校内の運営体制をしっかりとさせる必要がある。組織編成や遂行内容を弾力化し、実効性の高いものとし、さらには、継続的に将来を考える指導を行えるようにしていきたい。
- 将来を考えるためへの一步として、自己肯定感を高める視点からもとりくんできたが、教職員は生徒の成長を感じているが、生徒自身はまだ不足しているというギャップがある。指導の視点を変えることや言葉かけの工夫が必要である。
- 将来を見据えた教育を推進することで、学校生活アンケートの生徒自身に関する項目の数値が全国よりも高い。しかし、家庭学習の時間の数値は低い結果になっていることから、夢を実現し、自分らしい生き方をするために必要な、「確かな学力」を身につけさせていきたい。
- 次期学習指導要領において、生き方の学習は特別活動にも関連することから、総合的な学習の時間、特別活動との関連を考えていかなければならない。総合的な学習と特別活動の学習内容とは、共通するところがあり、相互に深い関連があることから、学習内容の相互関連を図った指導、活動計画の作成と実践が大切である。
- 教科等における知的学習や体験的・実践的な行動を通しての学習とが重なり合った形での横断的・総合的で多様な学習活動が行われる。特別活動や道徳における学習方法と共通する面を実践にいかすことが大切である。
- 個と集団の望ましい活動の育成が大切であり、個を尊重し重視する活動や、グループによる学習活動が行われることから、生徒の自律性や自己肯定感を高める活動と集団活動を通しての価値の発見や創造等と密接な関連があるので、得られた学習スキルを総合的な学習に生かすことを考えたい。
- 生き方の探求においては、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育てていくことが求められる。しかしながら、個人差が大きいので、生徒一人ひとりの発達段階に対応するための指導・助言を今後も充実させたい。
- 総合的な学習の時間の目標を達成する活動に、キャリア教育の視点を生かして意図的に指導していくことは、総合的な学習を充実させることにつながると考える。その際、実社会から問いを見出し探究する活動を通じて、各教科で身に付いた資質・能力を基盤にしていくことが大切であるので、今後も研鑽したい。

資料



資料 1

総合的な学習の時間 全体計画

<p>家庭・地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関心が高く、協力的である。 ・歴史と伝統の気風の中で、地域が一体となる基盤がある。 <p>生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直で都会的である。 ・社会性に富むが自己中心的な面が見られる。 ・心の豊かさが必要である。 <p>保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的で明るい子ども ・思いやりのある子ども ・粘り強い子ども <p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力の高い生徒 ・自ら学ぶ主体的・積極的な生徒 ・表現力の豊かな生徒 	<p>学校教育目標</p> <p>未来を展望する創造的な知性と、たくましい体力を持った、心豊かな生徒の育成 (めざす学校像) 「チーム茂中」</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)友だち同士、心の通う楽しい学校 (2)わかる喜び、学びの学校 (3)感動あふれる生き生きとした学校 	<p>関連法規等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・千葉県教育指針・大綱 ・茂原市教育施策 等 <p>地域社会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員制度の活用 ・地域に開かれた学校づくり <p>小学校や高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を推進する授業研究 ・合同研修会及び成果の共有 <p>社会の要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校などの問題行動の解消 ・社会の変化への対応
<p>総合的な学習の時間の目標</p> <p>自らの課題解決に向けて、自分の生活と地域の人々や自然とのかかわりについての探究的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付け、見いだされた課題や問題の解決に主体的に、かつ協同的に取り組み、よりよい自己の生き方を考えることができるようにする。</p>		

<p>育てようとする資質や能力及び態度</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○学習方法に関すること・・・自ら課題を設定し、方法や手順を考え、見直しをもって解決し、自分らしく表現することができる。 ○自分自身に関すること・・・自らの生活のあり方を見直し、自分の将来を考え、夢や希望をもつことができる。 ○他者や社会とのかかわりに関すること・・・異なる意見や他者の考えを受け入れ、協同して解決することができる。

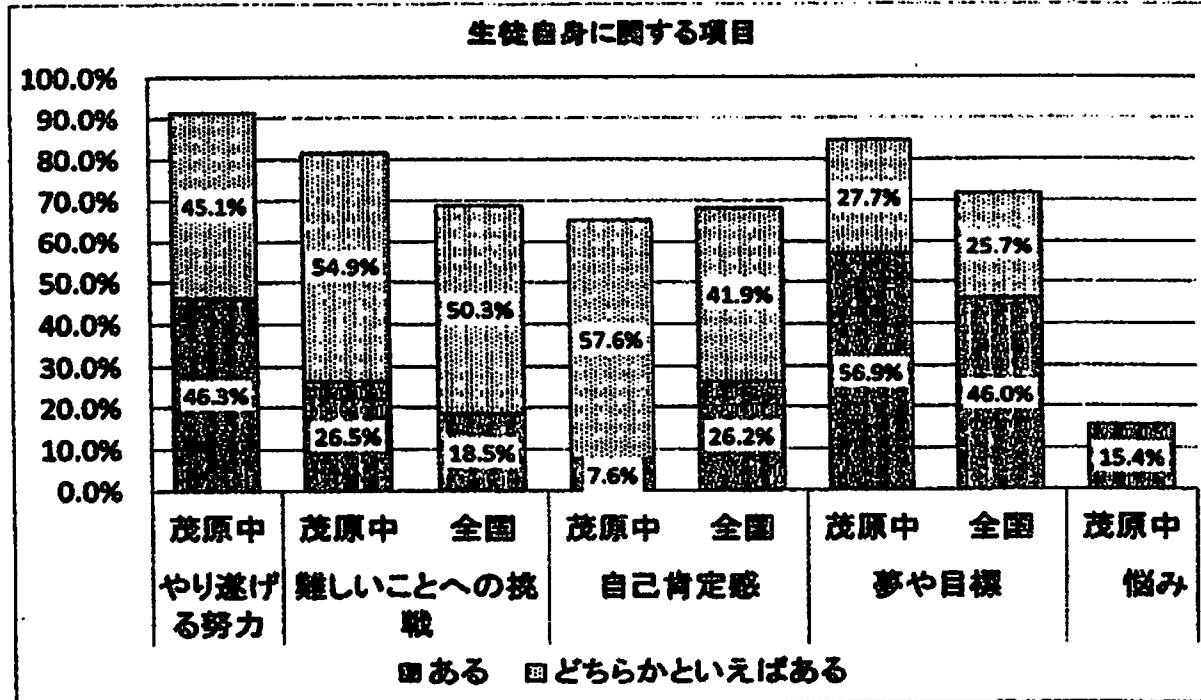
学年	1 学年	2 学年	3 学年
	調べ方	情報発信	夢の実現
学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学習・校外での体験学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 ○職業や自己の将来について、身近な職業を調べたり、職業ガイダンスなどの探究活動に主体的に取り組んだりすることで、自己を理解し、将来の生き方を考える。 ○自分の適性を考慮しながら、進路選択について考えるとともに、自分の将来設計を立て、自己の夢の実現と照らし合わせながら検討する。 		
	<p>第1期 「鴨川の自然や文化の探究」</p> <p>第2期 (キャリア教育) 「生き方探求 -身近な地域の産業や職業調べ-」</p> <ul style="list-style-type: none"> I 将来設計を考える II 地域の産業や職業についての探究 	<p>第1期 「長野県の自然の探求と自然体験」</p> <p>第2期 (キャリア教育) 「生き方探求 -職業と学業-」</p> <ul style="list-style-type: none"> I 職業についての探究 II 学業についての探究 	<p>第1期 「日本の文化を調べる」</p> <p>第2期 (キャリア教育) 「生き方探求 -進路決定に向けて-」</p> <ul style="list-style-type: none"> I 進路計画の作成・検討 II 進路実現に向けて
	<p>・体験を通して、自然・文化に対する理解を深める。</p> <p>・自分の未来を考える。</p> <p>・地域について探究し、「茂原」について理解する。</p> <p>・職業について探究する。</p>	<p>・体験を通して、自然や地域の産業を探究する。</p> <p>・職業人から話を聞いたり、体験することで職業について理解を深める。</p> <p>・中学校卒業後の進路を調べる。</p>	<p>・体験を通して、日本の歴史や文化を理解する。</p> <p>・自分の将来の生き方を決定する準備をする。</p> <p>・情報収集、整理・分析する能力を向上する。</p>

指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ○課題意識を喚起する指導法の工夫 ○体験活動の重視 ○協同的な学習活動の重視 ○教科との関連を図った学習活動の展開 ○言語活動の充実を図った学習活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間担当者を中心とした指導体制の構築 ○主任会での連絡・調整 ○全職員による指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別学習状況を把握するための評価基準設定 ○ポートフォリオを活用した評価の重視 ○個人内評価の重視・アウトカム評価 ○指導と評価の一体化

各教科との関連										
国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	特別活動
自分の考えをまとめ、表現する力。 言語に関する知識・理解・技能。	資料を収集し、活用する力。 社会的事象に関する知識・理解。	筋道を立てて考える力。 資料分析、活用する力。 課題設定、解決する力。	観察・実験の知識や技能。 論理的な思考力。 自然や生命の尊重。	創造的な表現・鑑賞力。 音楽を愛好し生活を潤わせる力。	創造的な表現力。 造形活動を楽しむ力。	健康・安全・運動に関する知識・理解。 健康管理する力。	実践的な知識や技能。 自然、社会、人とのかかわる力。 情報収集。	コミュニケーション能力。 語学を日常生活に生かせる力。	豊かな心、道徳性。 郷土を愛する心。 自己の生き方を考える力。	他者との関わりや実践力。 自己の進路を切り拓く力。 生き方のへ自覚。

自分自身に関すること

生徒自身に関する項目は、全体的に数値が高く、研究や日頃のやりとりの効果が見られる。



生徒自身に関する項目では、本校生徒は「ものごとを最後までやり遂げる努力をする」が91%と高い。全国と比較しても「挑戦する気持ち」「夢や目標」を持っている生徒の割合が10%以上高い。これはキャリア教育の充実が関わっていると思われる。

「悩みがある」生徒も15%と少なく、日頃の教育相談や担任との日記のやりとりの効果が見られる。

自己肯定感は若干低いので、今後の課題である。

自分自身	やり遂げる努力		難しいことへの挑戦		自己肯定感		夢や目標		悩み
	茂原中	全国	茂原中	全国	茂原中	全国	茂原中	全国	茂原中
ある	46.3%	45.1%	26.5%	54.9%	7.6%	57.6%	56.9%	27.7%	15.4%
どちらかといえばある	45.1%	46.3%	54.9%	26.5%	57.6%	7.6%	27.7%	25.7%	

茂原中：2016年6月実施

全国：2015年度全国学力・学習状況調査報告書

資料3

1年生 【生き方探求 No. 1】 《オリエンテーション》 形態：合同学習

- (1) ねらい ○進路学習をなぜ行うのか、理解する。
○進路学習は、生き方を学ぶものであり、自分の将来を考え、夢を持つこと、目標に向かって学ぶこと、働くことについて理解する。
○自分の生き方を考えようとする気持ちを持つことができる。
- (2) 流れ ①「進路」ってなあに (ウエビングマップ)
・生き方を学ぶ学習であることを知る。
②今、希望する職業は？ そして、その理由は
・今現在、自分が考えていることを記入させることにより、自分の生き方を考えようとする気持ちをもつ。

- 「進路」ってなあに
・「キャリア」って何？ ・今の生活は？ ・将来の夢は？ ・進路って？
○希望する職業は？
・職業ランキング
*なりたい職業 *人気職業 *就職人気企業 *職業別給料 *日本の億万長者
*長時間労働 *激務

1年生 【生き方探求 No. 2】 《キャリア学習の動機付けと振り返りのために》 形態：各学級

- (1) ねらい ○自分の人生を考えることができる。
☆学級で学習を進めることにより、生徒個々の考えを見極めていく場とする。
- (2) 流れ ①どのような人生を送っていきたいと考えますか。
・自分の人生をライフイベントと照らし合わせて考えてみる。
②生き方はいろいろ 人生で大切にしたい「価値」は？ (ブレインストーミング)
・自分なりの価値観を考えることができる。

- 人生について考える。
友だちの意見と比べたり、教師自身の話しを聞いたりして、いろいろな生き方があることを知る。
ライフイベントについて、おぼろげながら考えてみる。
○働くことだけでなく、日常生活や家庭生活、社会参画、余暇の大切さなどの生涯(人生)について、学習していくことを説明する。

1年生 【生き方探求 No. 3】 《中学校卒業後の自分を考えよう》 形態：各学級

- (1) ねらい ○自分の生き方を意識した進路計画をつくってみる。
○進路への多様な価値観や大切さを考え、進路選択へ向けての意識の向上を図る。
- (2) 流れ ①中学校卒業後の自分を考えよう
・「中学校卒業後の進路」を参考にし、進路設計を考える。
②卒業後の進路
・千葉県状況を知り、上級学校や就職について理解する。

- ・千葉県の高等学校を知る。

③進路マップ

- ・自分の進路マップを作成する。

- 自分の考える生き方、夢、職業、卒業後の進路、価値観などについて少しずつ考え始めている。より主体的な進路選択につなげるために、内面化していく必要がある。
- 3年生が進路選択のための三者面談を行っていることを例にあげるなどして、中学卒業後どうするか、5年後、10年後はどのようにするのかを考えさせ、自己実現へ向けての意欲の向上を図る。
- +α 教師や保護者のアドバイスをもらい、それに対する考えをまとめてもよい。

1年生 【生き方探求 No. 4】 《なぜ、わたしたちは働くのだろう》 形態：各学級

- ねらい
 - 自分なりの働く目的・意識を考えることにより、働くことや職業への興味・関心を高める。
 - 働くことの多様性や個々の価値観を理解することにより、働くことの重要性や大切さを理解する。
- 流れ
 - ①なぜ、わたしたちは働くのだろう。
 - ・中学生の意見、大人の考えを参考にし、自分の意見を考える。
 - ②もしも就職するならば ⇒ 作業学習（ランキング）
 - ・就職する時に、何を重要視するか考える。
 - ・自分の価値観を考える。「個人志向」「社会志向」「経済志向」「名誉志向」「安定志向」

- 自分たちが学んでいることや様々な経験をしていることが、将来の社会的・職業的自立につながることを多少イメージできている。しかし、働く目的や将来の職業について十分に考えるに至ってはいない。働くことや職業についての学習として、働く目的の多様な面について考えさせ、作業学習を通して、働くことや職業への興味・関心を高め、進路選択能力や勤労観・職業観の形成に役立てる。
- +α 自分の価値観、友達の価値観を話し合わせたり、保護者に意見をもとめてもよい。

1年生 【生き方探求 No. 5】 《自分を知ろう》 形態：各学級

- ねらい
 - 個性について理解し、関心を持つ。
 - 個性を認め合う大切さを知り、温かい人間関係づくりに務めようとする。
- 流れ
 - ①自分を知ろう
 - ・「個性」とは何かを考える。
 - ・友だちから、自分のいいところを2つ書いてもらい、自分を振り返る。
 - ・自分のいいところを見つけてくれた友達に、お礼の言葉を記入することで自分を振り返る。
 - ②自己分析
 - ・いろいろな角度から、自己分析を試みる。
 - ・自分のいいところ、これからのほしいところを考え、自分を振り返る。

- 自分の能力や適性など、自己理解を深めることは、進路の学習を進めていく上で重要である。まずは、人それぞれの「個性」について理解を深め、集団における相互の理解を図っていく。そして、これからの進路選択に前向きに取り組む意欲づけをするとともに、楽しい雰囲気の中で自己理解の深化と他者理解による人間関係の向上を図りたい。
- +α 自己分析を通して、友達はどうか、みんなで話し合う場を設けてもよい。

1年生 【生き方探求 No. 6】 《適職発見》 形態：各学級

(1) ねらい ○自分の興味関心から、仕事を見つけるきっかけをつくる。

(2) 流れ ①適職発見ゲーム

- ・質問から自分の興味関心を考え、自分を知る。
- ・自分に向いている仕事を発見する。
- ・いろいろな職業の分野を知る。

○適職発見ゲームを通して、自分を知るだけでなく、いろいろな職業の種類を知る。

○職業の分野と例を紹介し、身近な人への職業インタビューの事前指導とする。

1年生 【生き方探求 No. 7】 《いろいろな職業を調べてみよう：働いている人から学ぼう》

形態：各学級 ⇒ 課題 ⇒ 提出

(1) ねらい ○身近な人へのインタビューを通し、職業について、働くことについて考えることができる。

(2) 流れ ①身近な人へインタビュー

②身近な人（家族、親戚の人、近所の人など）にインタビューをし、仕事の内容を知る。

- ・職業に対する思いや考えを知る。
- ・聞いた話を、自分の将来の生き方を考えるヒントにする。

③質問したことをレポートにまとめる。

※提出したものを学級等で紹介し合う活動をする。（プレゼン）

○身近な人へのインタビューを通し、職業、働くことについて考えさせる。家族などへのインタビューを通して、家族と将来について会話が持てる場としたい。

※家族等へのインタビューが難しい場合も考えられるので、その場合、担任や学校内の先生でも可能する。

⇒教師はすばらしい職業だということをしっかり伝えてください！

1年生 【生き方探求 No. 8】 《職業調べ：いろいろな職業を調べてみよう》 形態：各学級

(1) ねらい ○興味のある職業について調べ、レポートにまとめることができる。

(2) 流れ ①職業調べ

- ・興味のある職業について、資料、書籍、インターネット等で調べる。
- ・それぞれの職業の特色、人の個性と職業の関係、資格や取得しなければならないもの、中学校卒業から卒業への道を調べる。
- ・調べたことをレポートにまとめる。例を参考にする。

※掲示物（廊下掲示用）にします。

※提出したものを学級等で紹介し合う活動を行います。（屋台村方式）

○今、興味のある職業について調べ、レポート作成を行う。資料、書籍、インターネット等を使いながら、情報を得て、必要なことを調べさせる。また、中学卒業後から、職業への道のりを知ることにより、今後、どうしていくことがよいか考えるきっかけとさせたい。

○興味のある職業がわからない生徒には、適職発見ゲームの上位項目を参考にさせ、調べさせるとよい。

生徒に身につけさせたい「基礎的・汎用的能力」

《全教育活動》

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
1 学年	・友達の考えや立場を理解することができ自分の考えを正確に伝えようとする。	・自分が「できること」「やりたいこと」等について理解し、それに基づき進んで行動しようとする。	・学習や様々な活動を進める上で、多くの課題を発見し、自分なりの方法で課題の解決にとりくむことができる。	・「学ぶこと」「働くこと」の楽しさや厳しさを実感し、多様な生き方に関する様々な情報を理解しようとするとともに、将来の夢や希望を抱く。
2 学年	・相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができ、自分の役割を果たそうとする。	・自分が「できること」「やりたいこと」「意義を感じること」等について、自分の可能性を信じて主体的に行動しようとする。	・学習や様々な活動を進める上で発見した課題について計画を立てて課題を解決することができる。	・「学ぶこと」「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら、将来の生き方や生活について考える。
3 学年	・自分の役割と責任を果たしながら、友達と協力して活動し、よりよい生活や学習をつくりだそうとする。	・自らの思考や感情を律しながら行動でき、また、これからの成長のために進んで学ぼうとする。	・学習や様々な活動を進める上で発見した課題について分析し、適切な計画を立てて課題を解決することができる。	・多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、将来のよりよい生き方や生活をめざして主体的に判断して行動しようとする。

《各教科・領域》

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
国 語 科	・相手の意見を踏まえ、場の状況に応じて文章を論理的に構成して話そうとする。	・文章を読んで、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つとする。	・目的に応じて資料を収集し活用して、説得力のある文章を書いたり、話することができる。	・目的に合わせて文章形態、構成を工夫しようとする。 ・資料を取捨選択して明確な根拠のもと、自分の意見を構築しようとする。 ・意見交換をする中で多様な考えを理解し、自分の考えを深めようとする。
社 会 科	・話し合い活動を通して、さまざまな意見を聞き合うことで、考えを深め課題を解決しようとする。	・地理的事象、歴史的事象を現代社会とつなげ、さまざまな視点から考察しようとする。	・さまざまな資料を適切に活用・分析し、背景や原因をとらえることができる。	・様々な地域や歴史上の人物、現代社会の課題を理解し、将来の自分と結びつけて考えようとする。
数 学 科	・話し合い活動を通して、他者と考えを伝え合いながら問題を解決しようとする。	・問題解決にあたって自分の意見を持ち、粘り強く考え抜こうとする。	・既習事項を活用して主体的に問題を解決し、自分の考えをよりよいものにまとめていくことができる。	・論理的に考察し、筋道を立ててわかりやすく表現しようとする。
理 科	・話し合い活動を通して、他者と協力・協働して、観察・実験を行おうとする。	・自己の適性や能力を理解するとともに、主体的に観察・実験を行おうとする。	・自然の事象・現象に疑問を見だし、課題を設定し、計画を立てて解決することができる。	・科学的な考え方や知識が、さまざまな職業や社会生活と関連していることを理解し、自らの生き方に生かそうとする。

音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を果たし、友達と意見を交わしたり、アドバイスしたりしながら、協力して活動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いて感じ取ったことを、他者に伝えようとする。 友達の表現を受け、自分の感性を深めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つけ、練習方法を工夫したり、様々な表現方法を考えたりしながら、解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な音楽や、様々な国の音楽、多様な音楽に触れ、生活と音楽のかかわりを感じ取ろうとする。
美術科	<ul style="list-style-type: none"> 作品のアイデアについて話し合ったり、制作に関するアドバイスをしながら、協力して活動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしい表現について考え、追求しようとする。 友達の表現を受け、自分の感性を深めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい作品作りのためにどうしたらよいかを考え、これまで習得した技法を使い、自分なりに工夫して仕上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統美や、世界の多様な美術に触れ、生活や社会における美術のかかわりを感じ取ろうとする。
保健体育科(体育分野)	<ul style="list-style-type: none"> 審判の判定や勝敗の結果を受け止め、ルールやマナーを守ることや自分のことだけでなく共に学ぶ仲間に対して必要な支援をすることに積極的な意志を持つようとする。 話し合い活動においてグループの学習課題等についての意思決定をする際に、相手の感情に配慮して発言したり、仲間の意見に同意したりしてグループの意思決定に参加しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動を通して、人の身体や心の状態には個人差があることを把握しようとする。 自己の体調の変化に気を配り、変化に応じて段階的に運動したり、用具や場所の安全に留意したり確認しようとする。 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぼうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方について改善すべきポイントを見つけたり、適切な練習方法を選ぶことができる。 提供された作戦や戦術から、自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる。 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動において実生活で継続しやすい運動例を選ぼうとする。 運動を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見つけようとする。
保健体育科(保健分野)	<ul style="list-style-type: none"> 異性の尊重、性情報への対処等思春期における適切な態度や行動選択について考えようとする。 飲料水・空気、生活に伴う廃棄物の衛生的管理と人々の健康を考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能の発達や発育、発達の個人差等について理解しようとする。 精神機能の自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康等について理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活行動、生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康、感染症の予防等について課題を発見し、解決方法を考えることができる。 交通事故や自然災害による障害の防止等の方策について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健・医療機関の有効活用、個人の健康を守る社会のとりくみ等について理解を深めようとする。
技術・家庭科(技術分野)	<ul style="list-style-type: none"> 著作権、人権、プライバシーの保護等、お互いを尊重しようとする。 マルチメディアを扱う上でのモラルの重要性を理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の進歩や実生活への活用方法について考えようとする。 コンピュータと自分とのかかわりについて意識し、情報機器を自己管理しながら利用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品に使われている材料の特徴や加工法やエネルギー変換方法と力の伝達の仕組み、栽培の場所、品種や特性等について、情報収集し、解決方法を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動力、情報技術、加工技術を支える職業について理解しようとする。 情報社会を支えた人達への理解をしようとする。 情報社会で気をつけることや守るべきことを理解し、実践しようとする。

技術・家庭科 (家庭分野)	<ul style="list-style-type: none"> ・製作や実習等を通して協調性・責任感を持つとする。 ・グループ活動の中で、お互いの意見や考えを尊重し、話し合おうとする。 ・家族や社会の一員としての自覚や役割を持って活動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活をつくるために、生活を見直し、課題を見つけ、必要な知識や技能を身につけて生活に役立てようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して生活を見直し、課題を持って活動を工夫し、計画を立てて実践しようとする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や社会の一員として、自己実現に向けて生活の自立を目指そうとする。 ・家庭や地域を支える活動や職業について理解しようとする。 ・製作や実習の課題や、グループ活動の役割を通して、課題や役割を達成する楽しさや喜び、充実感を味わい、勤労感を育もうとする。
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを理解したりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のモチベーションを高めながら進んで課題に取り組み、主体的にコミュニケーション活動に参加しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面や状況に合わせて表現することができる。 ・辞書で調べた情報を発信することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の機能や役割を理解し、言いたいことや書きたいことを相手に伝えようとする。 ・広い視野から国際理解を深め、国際理解の一員としての生き方を考えようとする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えようとする。 ・自分の状況を受け止め、役割を果たし協力しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の責任や役割について理解し、行動しようとする。 ・自己の思考や感情を考え、自己の成長のために進んで学ぼうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らなすべきことを考え、活動に積極的に参加することができる。 ・様々な課題を発見し、課題を解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己が果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨・選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成しようとする。
総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的、意図に応じて論理的に表現しようとする。 ・自らの行為について責任をもって意思決定しようとする。 ・互いの特徴を生かし、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもとうとする。 ・自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践しようとする。 ・互いの特徴を生かし、協同して課題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集することができる。 ・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動することができる。 ・課題の解決に向けて、社会活動に参画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。 ・自己の将来を考え、夢や希望をもとうとする。 ・目標を明確にし、課題解決に向けて計画的に行動しようとする。 ・環境の保全を考えて行動しようとする。
特別活動 (学級活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員としての自覚と責任・望ましい人間関係の確立・男女相互の理解をしようとする。 ・学校生活における規律と良き校風の確立のために活動しようとする。 ・校外における集団活動にて人間的な触れ合いや信頼関係を体験しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や他者の個性の理解と尊重をしようとする。 ・教養や情操を向上するための活動をしようとする。 ・安全な行動や規律ある集団行動をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校における生活上の諸問題を解決することができる。 ・身近な問題の解決をするための活動を行うことができる。 ・集団のきまりや社会生活上のルールを体験することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な進路の選択と将来設計を考えようとする。 ・ボランティア活動等に積極的に参加しようとする。 ・職業や進路にかかわる活動を通して、進路選択に役立てようとする。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや立場を考えた思いやりある言動をとうとうとする。 報告、質問、自分の考えなどを適切な言葉で相手に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所・短所、適性や能力について考えようとする。 自己の障害特性やストレスへの対応の仕方を身につけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や活動を進める中で生じた課題に対し、適切な方法で解決しようとすることができる。 社会のきまりやマナーを守り生活することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の生活を考え、言語、知識、生活に関わる技能の基礎的・基本的な内容を身につけようとする。 清掃や給食、委員会活動など、自分の役割に責任を持って取り組む中で、働くことへの関心を高めようとする。
--------	---	--	---	---

人とのつながり	前向きにやり抜く	自分磨き・探究	未来設計
---------	----------	---------	------

資料 5

総合的な学習の時間と教育活動との関わり

《第1学年》

月	総合的な学習の時間	特別活動	道徳	行事等
4	「鴨川の自然や文化の探究」	・中学生になって ・中学校の学習	C(1)道徳精神、公德心	・入学式 ・新入生歓迎会 ・交通安全教室 ・避難訓練
5	・事前学習と課題設定 ・体験活動	・自分の将来を想像しよう	A(1)自主・自律 D(1)自然愛護	・生徒総会 ・校外学習
6	・課題追究 ・学習のまとめ	・進路について学習しよう	A(4)克己と強い意志 C(5)集団生活の向上	・開校記念式典 ・教育相談 ・中間テスト
7	・報告会と発表	・夏休みの生活設計	A(2)節度、節制	・壮行会
9	「生き方探求 -身近な地域の産業や職業調べ-」	・望ましい学習習慣	C(1)郷土を愛する態度	・運動会 ・避難訓練 ・壮行会 ・期末テスト
10	I 将来設計を考える II 地域の産業や職業についての探究	・職業について考えよう	C(1)勤労 D(22)よりよく生きる喜び	・終業式 ・始業式 ・生徒会選挙 ・合唱コンクール
11	◎ 茂原学	・自分を知ろう	C(4)家庭生活の充実 D(9)生命の尊さ	・教育相談 ・中間テスト
12	・事前学習と課題設定 ・体験活動	・冬休みの生活設計	A(3)個性の伸長 C(18)国際貢献	・三者面談
1	・課題追究	・新年の抱負	B(7)礼儀 C(12)社会参画	・書き初め展 ・避難訓練
2	・学習のまとめ	・進路の計画を立てよう	C(11)公正、公平、社会正義	・期末テスト
3	・報告会と発表	・1年間を振り返って	C(5)集団生活の充実	・3年生を送る会 ・卒業式 ・修了式

《第2学年》

月	総合的な学習の時間	特別活動	道徳	行事等
4	「長野県の自然の探究と自然体験」	・2年生になって	A(2)節度、節制	・始業式 ・入学式 ・新入生歓迎会 ・避難訓練
5	・事前学習と課題設定 ・体験活動	・学習の見直しと悩みの克服	A(1)自主・自律 D(9)生命の尊さ	・生徒総会 ・校外学習
6	・課題追究 ・学習のまとめ	・働くことと学ぶこと	A(4)克己と強い意志 C(5)集団生活の向上	・開校記念式典 ・教育相談 ・中間テスト
7	・報告会と発表	・夏休みの生活設計	C(11)公正、公平	・壮行会
9	「生き方探求 -職業と学業-」	・20年後の自分	C(1)国を愛する態度	・運動会 ・避難訓練 ・壮行会 ・期末テスト
10	I 職業についての探究 II 学業についての探究	・職業の世界	B(7)礼儀 C(12)社会参画	・終業式 ・始業式 ・生徒会選挙 ・合唱コンクール
11	◎ プロフェッショナルに聞く	・学ぶ為の制度と機会 ・ボランティア活動とは	A(5)真理の探究 C(4)家庭生活の充実	・教育相談 ・中間テスト
12	・事前学習と課題設定 ・体験活動	・冬休みの生活設計	A(3)個性の伸長 C(18)国際貢献	・三者面談
1	・課題追究	・進路の決定を学ぼう	C(11)公正、公平、社会正義	・書き初め展 ・避難訓練
2	・学習のまとめ	・適性と進路	C(1)勤労	・期末テスト
3	・報告会と発表	・1年間を振り返って	C(4)家庭生活の充実	・3年生を送る会 ・卒業式 ・修了式

《第3学年》

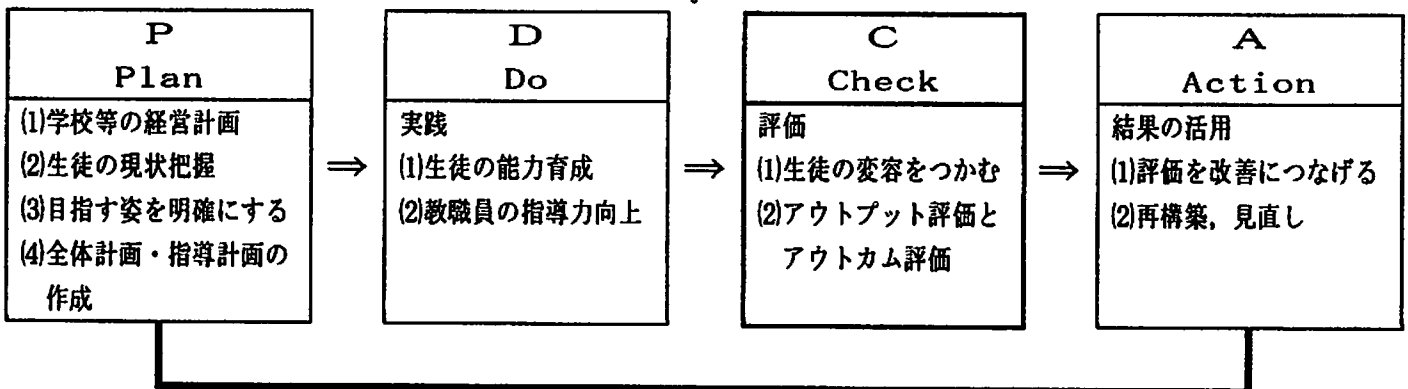
月	総合的な学習の時間	特別活動	道徳	行事等
4	「日本の文化を探る」 ・事前学習と課題設定	・3年生になって	A(2)節度、節制 C(1)勤労	・始業式 ・入学式 ・新入生歓迎会 ・避難訓練
5	・体験活動 ・課題追究	・3年生の学習 ・上級学校に進む意義	A(1)自主・自律 C(1)国を愛する態度	・生徒総会
6	・学習のまとめ ・報告会と発表	・授業を振り返る ・上級学校の体験・説明会の計画を立てよう	A(4)克己と強い意志 C(1)遵法精神	・開校記念式典 ・校外学習 ・教育相談 ・中間テスト
7		・夏休みの生活設計	B(6)思いやり	・壮行会 ・思春期教室
9	「生き方探求 ー進路決定に向けてー」	・生き方について考えよう	C(1)国を愛する態度	・運動会 ・避難訓練 ・壮行会 ・期末テスト
10	I 進路計画の作成・検討	・進路の悩みと克服 ・主体的な学習	B(7)礼儀 D(22)よりよく生きる喜び	・終業式 ・始業式 ・生徒会選挙 ・合唱コンクール
11	II 進路実現に向けて	・自分を見つめ直そう	C(4)家庭生活の充実	・教育相談 ・中間テスト
12	◎ 中・高連携特別授業 ・事前学習と計画	・進路の決定をしよう	A(3)個性の伸長 C(1)国際貢献	・三者面談
1	・説明会参加と報告 ・上級学校試験・検査の疑似体験	・新年の抱負と決意	B(7)礼儀 C(1)公正、公平、社会正義	・書き初め展 ・避難訓練
2	・卒業に向けての報告会	・進路選択と将来設計 ・自分の生かし方	A(3)向上心 D(22)よりよく生きる喜び	・期末テスト
3		・卒業後の抱負	C(1)集団生活の充実	・3年生を送る会 ・卒業式 ・修了式

《キャリア教育の推進》 10年後・20年後を考える生徒 アウトカム評価の推進

充実した計画に基づいてキャリア教育を推進している学校ほど、学習意欲も向上する

学習意欲向上の認識率		キャリア教育を通じて、生徒が学校での学習と自分の将来との関係に意義を見だし、学ぶ意欲をかきたてられること、そして、今度は日々の学習を通じて、生徒が今学んでいることを将来社会で役立てられるよう、しっかりと身につけさせることの双方が重要。
充実度の低い学校	9.7%	
充実度が中程度の学校	38.5%	
充実度が高い学校	55.1%	

キャリア教育のシナリオづくりのポイント 《PDCA》



《何で評価するのか》

Output (アウトプット) とは、算出物や作品 (数), 出力という意味であり, Outcome (アウトカム) とは成果という意味である。PDCAサイクルの中で、生徒の達成度を通して、キャリア教育の成果を検証することがアウトカム評価である。

《次につながる評価の実施》

アウトプット評価	アウトカム評価
<ul style="list-style-type: none"> ○「実施したか」 ○「何日行ったか」 ○「〇〇できたか」 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題についてどれだけ解決したか ○どの程度変わったのか ○意欲・態度や能力がどのように変容したか ○キャリア発達がどの程度促進されたか

「感想を書く」自由記述場面で、次につながる「見方・考え方」を表現できるように、ワークシートや個人掲示物、行事ノートを工夫したり、「事前・事後計画」による評価を行ったりすることで、変容を把握する。

生徒に身につけさせたい「基礎的・汎用的能力」の育成

2017年茂原中学校校内研究「研究部だより」より

資料7

《1年生：茂原学》



すすめよう
リサイクル



茂原のお城

《2年生：プロフェッショナルに聞く》



消防士・救急
隊の仕事

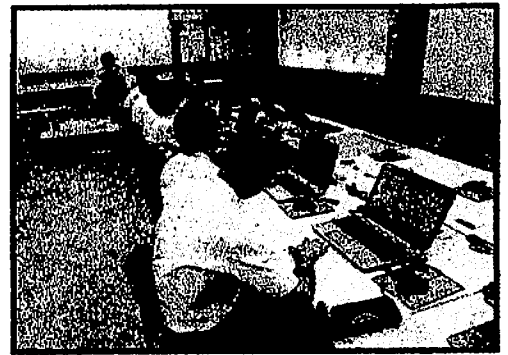


音楽家の仕事

《3年生：中高連携特別授業》



フラワーア
レンジメン
ト



表計算ソフ
トの活用